### ISOVANILLYL ALCOHOL DERIVATIVE

Patent number:

JP11209322

**Publication date:** 

1999-08-03

Inventor:

ONO TOSHIYA; YAMAGUCHI MASAKAZU; OBA TAKASHI; YAMAMURO AKIRA; FUJIKURA

YOSHIAKI

**Applicant:** 

**KAO CORP** 

Classification:

- international:

C07C43/23; A61K7/00; A61K31/085

- european:

Application number: JP19980014351 19980127

Priority number(s):

## Abstract of JP11209322

PROBLEM TO BE SOLVED: To obtain the subject new compound having a specific (branched) alkyl substituent, providing a reduced undesirable side effect and skin irritation, capable of rapidly imparting an effect of a strong warm feeling to skin when using the compound, capable of sustaining the feeling for a long period and useful as a skin preparation for external use.

SOLUTION: This new compound is the one of the formula [R is a 3-6C (branched) alkyl], e.g. isovanillyl n-propyl ether. The compound of the formula is obtained by reacting 3hydroxy-4-methoxybenzyl halide with a corresponding alkoxide in a solvent or without the solvent. The compound is preferably used as a skin preparation for external use in a dosage form such as a lotion, an emulsion, a skin lotion, a dentifrice, a soap, a cataplasma and a cream regulated so as to include 0.001-10 wt.%, preferably 0.01-5 wt.% compound of the formula.

(19)日本国特許庁 (JP)

# (12) 公開特許公報(A)

(11)特許出願公開番号

特開平11-209322

(43)公開日 平成11年(1999)8月3日

(51) Int.CL*		識別記号	FΙ		
C07C	43/23		C07C	43/23	С
A 6 1 K	7/00		A 6 1 K	7/00	С
	31/085	ADA		31/085	ADA

## 審査請求 未請求 請求項の数2 OL (全 5 頁)

(21)出願番号	特顯平10-14351	(71)出題人 000000918
		花王株式会社
(22) 出顧日	平成10年(1998) 1 月27日	東京都中央区日本橋茅場町1丁目14番10号
		(72)発明者 小野 敏也
		栃木県芳賀郡市貝町赤羽2608 花王株式会
		社研究所内
		(72)発明者 山口 真主
		栃木県芳賀郡市貝町赤羽2606 花王株式会
		社研究所内
		(72) 発明者 大場 剛史
		栃木県芳賀郡市貝町赤羽2606 花王株式会
		社研究所内
		(74)代理人 弁理士 有賀 三幸 (外4名)
		最終頁に続く

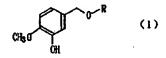
# (54) 【発明の名称】 イソパニリルアルコール誘導体

## (57)【要約】

【課題】 安全で皮膚刺激感が低減され、使用時に温かい感覚を与える皮膚外用剤の提供。

【解決手段】 次の一般式(1)

#### 【化1】



(式中、Rは炭素数3~6の直鎖または分岐鎖のアルキル基を示す。)で表わされるイソバニリルアルコール誘導体及びこれを有効成分とする皮膚外用剤。

【特許請求の範囲】 【請求項1】 次の一般式(1) 【化1】

(式中、Rは炭素数3~6の直鎖または分岐鎖のアルキル基を示す)で表わされるイソバニリルアルコール誘導体。

【請求項2】 請求項1記載のイソバニリルアルコール 誘導体を有効成分とする皮膚外用剤、

## 【発明の詳細な説明】

#### [0001]

【発明の属する技術分野】本発明は新規なイソバニリルアルコール誘導体及びこれを有効成分とする、皮膚に塗布することにより温密を与え得る皮膚外用剤に関する。 【0002】

【従来の技術】従来より、使用時に温感を与える目的で多価アルコール、唐辛子末、唐辛子チンキ、唐辛子エキス、カプサイシン、ノナン酸バニルアミド、生姜溶液、メントール、カンファー、サリチル酸メチル等が皮膚外用剤に配合されている。またバニリルアルコール誘導体が皮膚刺激感覚に対して特殊な刺激を与え、これを溶媒で稀釈したものは温感を与えることが知られている(特開昭57-9729号公報)。さらにバニリルアルコール誘導体、水溶性界面活性剤及び水を配合することにより、皮膚に塗布した際、人体に好ましくない皮膚刺激感を低減し、かつ皮膚に速やかに温感を与えることができることが知られている(特開昭62-205007号公報)。

#### [0003]

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、多価アルコール、唐辛子末等は、特異な刺激臭や強い皮膚刺激感を有していたり、温感効果が十分でない等の問題を有していた。また特開昭57-9729号公報の技術は、温感効果はあるが、同時に好ましくない皮膚刺激感も強く、この刺激感を低減するために使用量を減少させると、持続時間も短くなってしまうという問題を有していた。さらに特開昭62-205007号公報の技術は、皮膚刺激感を低下させることができるが、その効果は必ずしも満足できるものではなく、温感持続時間も短くなってしまうものであった。

【0004】従って、本発明は人体に好ましくない副作用や皮膚刺激感が低減され、使用時には速やかに温感を与えると共に適度の温感を長時間保持し得る化合物、及びかかる化合物を有効成分とする皮膚外用剤を提供することを目的とする。

#### [0005]

【課題を解決するための手段】かかる実情に鑑み、本発

明者らは上記目的を達成するため鋭意研究したところ、 意外にも特定のイソバニリルアルコール誘導体が、皮膚 に対して強い温感効果を有すると共に、その効果が比較 的長時間持続し、さらに人体に対して好ましくない皮膚 刺激をほとんど生じないという従来の温感剤では実現し えない特性を有することを見出し、本発明を完成させ た。

【0006】すなわち本発明は、次の一般式 (1) 【0007】

【化2】

【0008】(式中Rは炭素数3~6の直鎖または分岐 鎖のアルキル基を示す。)で表わされるイソバニリルア ルコール誘導体、及びかかるイソバニリルアルコール誘 導体を有効成分とする皮膚外用剤を提供するものであ る。

#### [0009]

【発明の実施の形態】本発明のイソバニリルアルコール 誘導体としては、一般式(1)中Rがnープロピル基、 iープロピル基、nーブチル基、iーブチル基、nーペ ンチル基であることが好ましい。

【0010】本発明のイソバニリルアルコール誘導体は、公知の種々の方法により合成することができる。例えばウィリアムソンのエーテル合成法により、3ーヒドロキシー4ーメトキシベンジルハライドとアルコキシドとを、またはイソバニリルアルコキシドとアルキルハライドとを、無溶媒または溶媒中で反応させて合成することができる。

【0011】あるいは例えば次の方法で合成することもできる。すなわち、対応するアルコールに濃塩酸や濃硫酸等の強酸を混合し、これにイソバニリルアルコールを加えて反応させ、目的物を得ることができる。ここで強酸はアルキルアルコールの0.1~30モル%程度添加することが好ましい。また加熱温度は20~90℃程度であることが好ましい。さらにアルキルアルコールはイソバニリルアルコールに対してモル比で2~20倍程度用いることが好ましい。

【0012】本発明の皮膚外用剤は、上記のイソバニリルアルコール誘導体を有効成分として含有するもので、上記イソバニリルアルコール誘導体を1種または2種以上混合して用いることができる。あるいは、唐辛子末、多価アルコール等の他の温感を与える化合物を併用することにより、皮膚刺激感を高めることなく温感効果をさらに向上させることもできる。本発明の皮膚外用剤の形態としては特に制限はなく、例えばローション、乳液、化粧水、歯磨剤、液体石ケン、固体石ケン、クリーム状へアーコンディショナー、バッブ剤、クリーム、ボディ

ーシャンプー、ハンドクリーム、ジェル、軟膏等を挙げることができる。かかる製剤とするために、必要に応じて賦形剤、増量剤、結合剤、湿潤化剤、崩壊剤、油性物質、界面活性剤、滑沢剤、分散剤、緩衝剤、保存剤、防腐剤、着色剤、香料等を適宜配合することができる。

【0013】本発明のイソバニリルアルコール誘導体の皮膚外用剤中の含有量は、0.001~10重量%であることが好ましく、0.01~5重量%であることが特に好ましい。0.001~10重量%であれば、皮膚に温感を与える効果が大きく、さらに好ましくない皮膚刺激感を与えることが極めて少ない。

【0014】本発明の皮膚外用剤は、例えばイソバニリルアルコール誘導体及びその他の添加剤を混合し、適宜 撹拌等することにより得ることができる。

## [0015]

【実施例】次に実施例を示して本発明をさらに詳細に説明するが、本発明は以下の実施例に限定されるものではない。

【0016】実施例1 化合物(1)イソバニリルnープロピルエーテルの合成

磁器視拌器、還流冷却管を備えた100 配容の2口フラスコに n-プロビルアルコール23.4g(389 mol)及び環塩酸0.18 配を加え、70℃に加熱し攪拌した。これにイソバニリルアルコール6.00g(3.8.9 mol)を加え、30分間反応させた。反応終了後室温まで冷却し、飽和炭酸水素ナトリウム溶液を加えて塩酸を中和した。次いで酢酸エチルで抽出し、抽出した油層を飽和食塩水で十分洗浄し、無水硫酸マグネシウムで乾燥した後、溶媒を留去して黄色油状物を得た。この黄色油状物を減圧蒸留(150~160℃/0.1 mm g)によって精製し、標記化合物イソバニリル n-プロビルエーテル(1-1)3.28g(イソバニリルアルコールに対して43.0%)を得た。得られた化合物(1)の物性は次の通りである。

[ 0 0 1 7 ]  $^{1}$ H-NNR (CDCl<sub>3</sub>,  $\delta$ ) : 0.93(t,3H,J=7.4Hz), 1.61(m,2H),3.40(t,2H,J=6.7Hz), 3.88(s,3H), 4.40(s, 2H), 5.63(s,1H),6.82-6.93(m,3H)

IR(cm<sup>-1</sup>): 3436, 2968, 2940, 2864, 1596, 1514, 145 8, 1446, 1370, 1278, 1154, 1128, 1092, 1028, 804, 7

【0018】実施例2 化合物(2)イソバニリルisoープロピルエーテルの合成

上記実施例1で用いた n - プロビルアルコールをiso - プロビルアルコール19.5g(324 mol)に代えて、イソバニリルアルコール4.75g(30.8 mol)を用いて上記実施例1と同様の方法で行い、減圧蒸留(160℃/0.1 mulls)精製によって標記化合物イツバニリルiso-プロビルエーテル(2)2.56g(イソバニリルアルコールに対して42.3%)を得た。得られた化合物(2)の物性は次の通りである。

[ 0 0 1 9 ]  $^{1}$ H-NMR(CDCl<sub>3</sub>,  $\delta$ ): 1.20(d,6H,J=6.0Hz), 3.66(sept,1H,J=6.0Hz), 3.88(s,3H), 4.41(s,2H), 5.61 (s,1H), 6.82-6.94(m,3H)

IR(cm<sup>-1</sup>): 3448, 2976, 2940, 2876, 1596, 1516, 144 6, 1382, 1278, 1126,1030, 800, 760

【0020】実施例3 化合物 (3) イソバニリル n ープチルエーテルの合成

上記実施例1で用いたn-プロビルアルコールをn-ブ チルアルコール82.0g(1.11mol)に代えて、 イソバニリルアルコール17.0g(110.3mmol)、濃塩酸0.48gを用いて上記実施例1と同様の 方法で行い、減圧蒸留(170℃/0.2mmlg)精製によって標記化合物イソバニリルn-ブチルエーテル (3)12.19g(イソバニリルアルコールに対して 52.6%)を得た。得られた化合物(3)の物性は次の通りである。

[ 0.021 ] <sup>1</sup>H-NMR(CDC1<sub>3</sub>,  $\delta$ ): 0.91(t, 3H, J=7.2Hz), 1.36-1.62(m, 4H), 3.44(t, 2H, J=8.0Hz), 3.88(s, 3H), 4.40(s, 2H), 5.62(s, 1H), 6.62-6.93(m, 3H)

IR(cm<sup>-1</sup>): 3448, 2964, 2940, 2872, 1596, 1514, 144 6, 1374, 1278, 1128, 1094, 1030, 802, 760

【0022】実施例4 化合物(4)イソバニリルisoープチルエーテルの合成

上記実施例1で用いたn-プロビルアルコールをiso-ブチルアルコール28.8g(379mol)に代え、減圧蒸留を160~170℃/0.1mmlgで行った以外は上記実施例1と同様の方法で行い、標記化合物イソバニリルiso-ブチルエーテル(4)4.23g(イソバニリルアルコールに対して51.7%)を得た。得られた化合物(4)の物性は次の通りである。

[ 0.023 ]  $^{1}$ H-NMR (CDCl<sub>3</sub>,  $\delta$ ) : 0.91 (d, 6H, J=6.6Hz), 1.89 (sept, 1H, J=6.6Hz), 3.20 (d, 2H, J=6.6Hz), 3.88 (s, 3 H), 4.41 (s, 2H), 5.62 (s, 1H), 6.82-6.93 (m, 3H) IR (cm<sup>-1</sup>) : 3248, 3036, 3004, 2956, 2876, 1592, 1514, 1460, 1448, 1370, 1280, 1132, 1066, 1026, 756, 640

【0024】実施例5 化合物 (5) イソバニリルア ミルエーテルの合成

上記実施例1で用いた n - プロビルアルコールを n - アミルアルコール34.3g(389 mol)に代え、減圧蒸留を160~170℃/0.1 mlkで行った以外は上記実施例1と同様の方法で行い、標記化合物イソバニリル n - アミルエーテル(5)4.38g(イソバニリルアルコールに対して50.2%)を得た。得られた化合物(5)の物性は次の通りである。

[ 0.025 ] <sup>1</sup>H-NMR(CDC1<sub>3</sub>,  $\delta$ ): 0.89 (t, 3H, J=6.9Hz), 1.33 (m, 4H), 1.56-1.63 (m, 2H), 3.43 (t, 2H, J=6.6Hz), 3.88 (s, 3H), 4.40 (s, 2H), 5.61 (s, 1H), 6.82-6.93 (m, 3H) IR(cm<sup>-1</sup>): 3448, 2940, 2864, 1596, 1514, 1460, 1368, 1276, 1128, 1094, 1028, 802, 760

【0026】実施例6 化合物(6)イソバニリルi so-アミルエーテルの合成

上記実施例1で用いたn-プロピルアルコールをiso ーアミルアルコール28.6g(324mmol)に代え、 減圧蒸留を160~170℃/0.1 mmHgで行った以外 は上記合成例1と同様の方法で行い、標記化合物イソバ ニリルiso-アミルエーテル(6)3.25g(イソ バニリルアルコールに対して44.7%)を得た。得ら れた化合物(6)の物性は次の通りである。

 $[0027]^{1}H-NMR(CDCl_3, \delta):0.89(d,6H,J=6.5Hz),$ 1.50(q, 2H, J=6.8Hz), 1.73(m, 1H), 3.46(t, 2H, J=6.8Hz).3.88(s,3H), 4.40(s,2H), 5.60(s,1H), 6.82-6.93(m,3H)H)

 $IR(cm^{-1}): 3432, 2960, 2872, 1596, 1514, 1464, 144$ 6, 1372, 1278, 1128, 1092, 1028, 802, 760

【0028】実施例7 化合物(7)イソバニリルn 上記実施例1で用いた n-プロピルアルコールを n-へ キシルアルコール33.0g(324mmol)に代え、減 圧蒸留を160~170℃/0.1㎜Hgで行った以外は 上記実施例1と同様の方法で行い、 標記化合物イソバニ リルn-ヘキシルエーテル(7)4.83g(イソバニ リルアルコールに対して62.6%)を得た。得られた 化合物(7)の物性は次の通りである。

 $(0029)^{1}H-NMR(CDCl_3, \delta): 0.88(t, 3H, J=6.8Hz),$ 1.29-1.63(m,8H), 3.43(t,2H,J=6.6Hz), 3.88(s,3H), 4. 40(s, 2H), 5.60(s, 1H), 6.82-6.93(m, 3H)

IR(cm<sup>-1</sup>): 3440, 2936, 2864, 1596, 1514, 1462, 144 6, 1372, 1278, 1128, 1096, 1030, 802, 758 【0030】試験例1

表1に示す配合で試験溶液を作成した。

[0031] 【表1】

-ヘキシルエーテルの合成

	試 験 溶 液					
<u> </u>	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)
化合物 (1)	0.05	-	-	-	_	
化合物 (2)	-	0.05	-	_	_	-
化合物(3)	-	-	0.05	-		
化合物 (4)	_	-	-	0.05		_
化合物 (5)	-	-	_	_	0.05	_
カプサイシン	_	_			-	0.005
50%エタノール水	バランス	パランス	パランス	バランス	バランス	バランス

【0032】10人の健常男性の前腕内側に、上記で得 られた各試験溶液を10μL塗布し、塗布直後、30分 後、及び1時間後の温感と皮膚刺激感について調査し た. 温感または皮膚刺激感をわずかでも感じられると答

えた人の数を表2に示す。 [0033] 【表2】

	堕布直後		3 0 分後		1 時間後	
	温感	皮膚刺激感	温感	皮膚刺激感	温感	皮膚刺激感
試験溶液(1)	8	6	6	4	5	ı
試験溶液(2)	6	6	4	3	4	1
試験溶液(3)	10	6	8	4	6	2
試験溶液(4)	7	7	4	2	3	1
試験溶液(5)	6	5	4	2	3	0
試験溶液(6)	10	10	6	9	2	8

【0034】表2より、試験溶液(1)~(5)は、十 分な温感が比較的長時間持続し、かつ皮膚刺激感が弱い という優れた効果を有することが確認された。またかか る効果は従来の温感剤からは得られないものであること が確認された。

【0035】実施例8

表3に示す配合割合で常法により化粧水を製造した。

[0036]

【表3】

成分	重量%
グリセリン	15.0
ポリエチレングリコール (PEG1500)	2.0

ヒアルロン酸 ジプロピレングリコール 化合物 (1) 精製水

0.05

5.0

0.05 パランス

[0037]

【発明の効果】本発明の皮膚外用剤は、本発明のイソバニリルアルコール誘導体を有効成分として含有すること

により、人体に好ましくない副作用が皮膚刺激感が低減され、使用時には速やかに肌に温感を与えると共に、適度の温感を長時間保持することができる。

フロントページの続き

(72)発明者 山室 朗

栃木県芳賀郡市貝町赤羽2606 花王株式会 社研究所内 (72)発明者 藤倉 芳明

栃木県芳賀郡市貝町赤羽2606 花王株式会 社研究所内

```
L7 ANSWER 33 OF 45 CAPLUS COPYRIGHT 2003 ACS ACCESSION NUMBER: 1999:511131 CAPLUS DOCUMENT NUMBER: 131:157643
                                                                                            131:157643
Preparation of hydraxones derivatives for treatment or prevention of diseases related to glucose metabolic pathways
Sacobsen, Paller Madsen, Peters Vestergaard, Hiels
Novo Hordisk M.S., Den.
PCT Int. Appl., 71 pp.
CODEN: PIXXO2
Patent
English
1
INVENTOR(S)
 PATENT ASSIGNER(S):
SOURCE:
DOCUMENT TYPE:
LANGUAGE:
FAMILY ACC. NUM. COUNT:
FATENT INFORMATION:
                     PATENT NO.
                                                                                    KIND DATE
                                                                                                                                                                   APPLICATION NO.
                                                                                       A1 19990012
                     NO 9940062
                                                                                                                                                                                                                                    19990203
                                                                                                                                                                   WO 1999-DX53
                   NO 3940062 A1 19990112 W0 1999-DX53 19990203

V: AL, AM, AT, AU, AZ, BA, BB, BG, BR, BY, CA, CB, CM, CU, CE, DB, DK, EE, ES, FI, GB, GD, CE, GE, GM, HR, HU, ID, IL, IM, IS, JP, KE, KE, KE, KR, KR, KR, EC, LK, LA, LS, LT, LU, LV, MD, MG, MK, MM, KK, MO, MK, PL, FT, NO, RU, SD, SE, SG, SI, SK, SL, TJ, TM, TR, TT, UA, UD, UZ, YM, TU, ZW, AM, AZ, BY, KG, KZ, MD, RU, TJ, TM KWI GB, GM, KE, LS, MW, SD, SJ, UG, ZW, AT, BE, CB, CY, DE, DK, ES, FI, FR, GB, GR, IE, IT, LU, MC, NL, FT, SE, BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GM, GW, ML, MR, ME, SM, TD, TG

AU 9926102 A1 19990123 AU 1999-26102 19990203

RITT APPLM. INFO:

DX 1998-10001P W0 1999-DX53 V 19990203

R SOURCE(S):
```

PRIORITY APPLM. INFO.:

DX 1998-159 A 19980205
US 1998-16001F P 19980205
US 1998-16001F P 19980209
US 1998-18001F P 19980209
US 19980209
US 1998-1800209
US 1998-180 PRIORITY APPLM. INFO.:

```
L7 ANSWER 34 OF 45 CAPLUS COPYRIGHT 2003 ACS
ACCESSION NUMBER:
DOCUMENT NUMBER:
131:16071 Preparation of others of isovanily alcohols as skin treatment agents for external use
0no, Toshiyar Yamaguchi, Masashir Ohba, Takeshir Yamaguch, Mira Pylkura, Yoshiaki
Vansuruc, Akirar Pylkura, Yoshiaki
DOCHMENT TYR:

DOCHMENT TYR:

L20 COPYRIGHT 2003 ACS
ACCESSION ACS

DOCHMENT TYR:

L30 COPYRIGHT 2003 ACS

L30 CAPLUS

L3
              DOCUMENT TYPE:
                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  Patent
         LANGUAGE:
FAMILY ACC. NUM. COUNT:
PATENT INFORMATION:
```

PATENT NO. KIND DATE APPLICATION NO. DATE A2 19990803

PATENT NO. KIND DATE

APPLICATION NO. DATE

JP 11209322 A2 19990803 JP 1998-14351 19980127

FRIORITY APPLM. INFO:

TILE compde. I (R - C3-6 linear or branched alkyl), which give a feeling of warmth and reduced situalation, are prepd. Inovanilyl alc. was etherified with Pr alc. in the presence of BCL at 70.degree. for 30 min to give 41.00 isovanilyl Fether, which give feeling of warmth on the akim.

IT 233258-79-39 233258-80-99 233258-80-09
233258-82-89 233258-83-99 233258-80-09
EAU BAC (Biological activity or effector, except adverse)) BSU (Biological study), unclassified)) BUU (Biological use, unclassified); STM (Synthetic preparation); TSU (Therapeutic use); BIOL (Biological study);
PRIP (Preparation); USES (Uses)

(prepn. of ethers of isovanilyl alcs. as skin treatment agents for external use)

233255-79-3 CAPUS

CM Phenol, 2-methomy-5-(propoxymethyl)- (9CI) (CA INDEX NAME)

233255-90-6 CAPLUS
Phenol, 2-methoxy-5-{(1-methylethoxy)methyl}- (9CI) (CA INDEX NAME)

233255-81-7 CAPLUS
Phenol, 5-(butoxymethyl)-2-methoxy- (9CI) (CA INDEX NAME)

ANSVER 33 OF 45 CAPLUS COPYRIGHT 2003 ACS INDEX NAME) (Continued)

THERE ARE 11 CITED REFERENCES AVAILABLE FOR THIS RECORD. ALL CITATIONS AVAILABLE IN THE RE FORGAT

ANSWER 34 OF 45 CAPLUS COPYRIGHT 2003 ACS (Continued)

233255-92-0 CAPLUS
Phenol, 2-methoxy-5-[(2-methylpropoxy)methyl]- (9CI) (CA INDEX NAME)

233255-03-9 CAPLUS
Phenol, 2-methoxy-5-[{pentyloxy}methyl}- {9Cl} (CA INDEX NAME)

233255-94-0 CAPLUS
Phenol, 2-methory-5-[(3-methylbutoxy)methyl]- {9CI} (CA INDEX NAME)

233255-05-1 CAPLUS
Phenol, 5-[(hexyloxy)methyl]-2-methoxy- (9CI) (CA INDEX NAME)